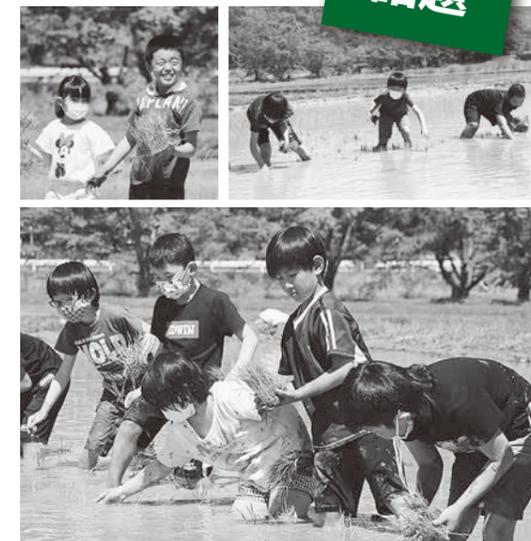


西紀小の児童が青空の下で田植え体験(5月6日)

西紀小学校で田植えの体験授業が行われました。これは、地域の農業への理解を深めてもらおうと、毎年行われているもので、全児童が参加しました。この日は、3年生と4年生、2年生と5年生、1年生と6年生がペアを組み、順番に田植えに挑戦。田んぼに素足で入った児童たちは、横一列に並び、地域の方の指導を受けながら、慣れない手つきで苗を植えていきました。最初は、「水が冷たい」「足が抜けない」と悪戦苦闘していた児童たちも、徐々に植える手つきも早くなり、田植えを楽しんでいました。



新型コロナウイルス等感染症対策支援 寄附金受領式(4月15日)

兵庫県信用組合から、寄付金付SDGs応援定期預金「がんばろうひょうご」の預入額の0.02%にあたる20万円を、丹波篠山市新型コロナウイルス等感染症対策支援寄附金として寄付いただきました。兵庫県信用組合と市は、県内で一番初めに包括地域連携協定を締結し、金融機関のノウハウやネットワークを活用した中小企業支援を行ってきました。そのような縁や、市のめざす持続可能な社会づくりが、兵庫県信用組合のSDGs宣言と基本的な考えが同じであったことから、今回、ご寄付をいただくことになりました。



市内の手書きマップを贈呈(4月30日)

市と市内の18郵便局は昨年7月に包括連携協定を締結し、高齢者の見守り活動や地域経済の活性化など、地域の課題解決に向けた取り組みを進めています。今回、連携事業の一環として、市役所や郵便局、名所などが掲載された市全体のマップや、各郵便局それぞれの周辺地図をまとめた冊子の寄贈をいただきました。このマップは、各局の郵便局員の皆さんが色鉛筆などを使って描かれており、温かみのある仕上がりとなっています。今後は、市役所を訪れた方に役立てていただくため、市役所本庁や各支所に設置していきます。



給食でまるごと丼提供(5月10日)

丹波篠山市の特産物を盛り込んだご当地グルメ「篠山まるごと丼」が、市内の幼稚園・保育園・小学校・中学校・特別支援学校などの給食で提供されました。これは、まるごと丼の普及を進めている丹波篠山ご当地グルメ推進委員会が毎年5月10日を「0510(まるごと)」にちなんで、「まるごと丼の日」と決めて実施しているものです。篠山小学校では、児童たちが篠山産のコシヒカリ、肉、山の芋など、地元の食材が詰まった「篠山まるごと丼」をおいしそうにほおぼっていました。



丹波篠山の黒大豆栽培 ～ムラが支える優良種子と家族農業～

丹波篠山は黒大豆栽培に適した土地だったのか ～丹波篠山の地形と気象からみる～

丹波篠山地域は、盆地地形で内陸性気候のため、雨が多くありません。さらに、盆地周りの山々は低く、雨水を集めることができる面積が限られているので、川の水も少なく、昔から用水不足に悩まされてきました。

篠山藩は江戸時代初期に多くのため池をつくりましたが、それでも水不足が全域で解消されるには至りませんでした。昭和初期ごろには、春先の代掻きや田植えに備えて、冬のうちに田んぼに水を貯える冬期湛水をする田んぼが158ha(市全体の10.4%)もあったそうです(※1)。

地形からみると、約1～3万年前、篠山盆地は「古篠山湖」だったと考えられています(※2)。丹波篠山の平地部分は湖の底であり、土壌は土地生産力が高いものの、粘土質で水はけの悪いものでした。

丹波篠山地域は、最初から黒大豆栽培に恵まれた土地ではなく、水不足や水はけの悪さを先人たちの努力によって克服し、ようやく豊かな農産物が採れる地域になったのです。

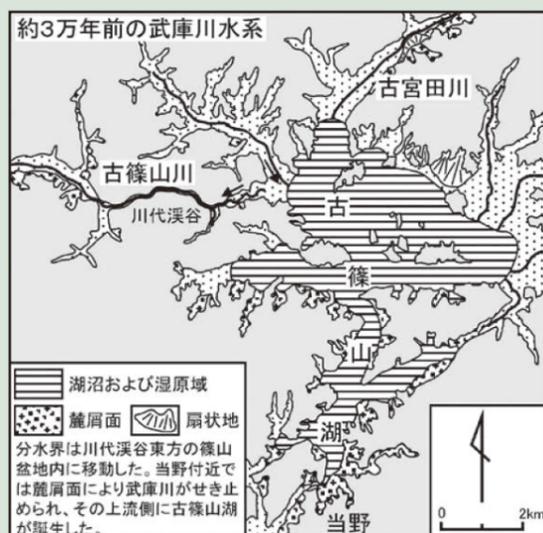
【参考文献】

(※1)後藤定年ら(1955)丹波篠山盆地における湿田改良対策研究1、兵庫農科大学研究報告. 農学編2(1):p.101-106

(※2)加藤茂弘(2006)武庫川のふしぎな地形と地質、武庫川散歩(人と自然特別号2):p.37-51

日本農業遺産認定 丹波篠山の黒大豆栽培・300年の歴史

vol.02



加藤茂弘(2006)から引用

2▶7 特集
8▶9 街かどリポート
10▶11 コロナウイルス感染症対策
12▶15 タウントピックス
16▶21 市政リーダー
22▶23 ささやまホットステーション
24▶25 はぐくみ
26▶29 施設情報
30▶35 インフォメーション

大学連携でんしよばと

問い合わせ
神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ ☎506-6628
神戸大学丹波篠山フィールドステーション ☎506-2366

えきラボ通信



ラボ・オープントーク 「草山地区・やまもりサーキット編」を開催しました！

「ローカルで自分のしごとをつくる」って何だ？

3月17日に、参加者・講師含め37人がオンライン上に集結し、2021年度CBL講師である大谷晃平さんに、代表を務めるやまもりサーキットの設立から今までの経緯を語っていただきました。参加者からは「成功するためにはこれだけ綿密なリサーチが必要なのだ」と目から鱗が落ちた「キャンプ場運営を地域振興の一環と捉えているところが非常に興味深かった」など、好評を得ました。

CBLとは、地域を拠点にした実践的な学びの場のことで、篠山イノベーターズスクールの核となるカリキュラムです。今年度も、CBLから新たなビジネスが生まれることを、事務局一同楽しみにしています！

ラボ・オープントークとは？

神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボでは「ラボ・オープントーク」と題して、誰でも参加できるオープンセミナーを企画しています。地域でホットな話題について、学び、対話するセミナーのシリーズです。



篠山イノベーターズスクールが5月から開講しています！ ※2021年度生の募集は終了しました。引き続き、活動を発信していきますので、ご期待ください！ 2022年度生の募集は、2022年2月ごろを予定しています。

学生・アクション ラーニング



フィールドステーションの 新しいスタッフの紹介

新年度から、地域再生協働員として置塩ひかるさんがフィールドステーションを拠点として活動することになりました。

置塩さんは、神戸大学も参加する丹波篠山市の「ワクワク農村プロジェクト」のコーディネーターとして、モデル地区の計画づくりを支援します。実は、大学生だった昨年度からアルバイトとして地域の方へのインタビューのとりまとめなど、ワクワク農村未来プランに関わってきました。

「ワクワク農村プロジェクト」は、神戸大学の食農コープ教育プログラムや地域共同研究、地域おこし協力隊などとも連携して進めていきたいと考えています。
(清水夏樹さん：神戸大学農学研究科特命准教授)



ワクワク農村未来プランのためのインタビューにも参加しました

ササる！協力隊



新しい仲間が加わりました！

4月1日、市役所で、地域おこし協力隊員3人と地域再生協働員1人の委嘱状交付式が行われました。

丹波篠山市地域おこし協力隊(写真右から)
今田地区＝中園十夏さん、城南地区＝村上真菜美さん
岡野地区＝杉田かなえさん

地域再生協働員 置塩ひかるさん(写真左)

現在活動中の隊員3人(福住地区、大山地区、大芋地区)を含め、2021年度は6人の隊員が各地域でさまざまな活動を行っています。皆さんどうぞよろしくお願いいたします。



活動についてのお問い合わせはこちらまで！ 丹波篠山フィールドステーション 河口英樹さん ☎506-2366

今月のこんにちは市長室

市長が市政に対してのご意見やご要望をお聴きする場として開催しています。事前の申し込みは不要で、懇談会または1人15分程度の面談です。
とき 6月10日(木) 16:00～19:00
ところ 本庁舎3階・応接室
問い合わせ 秘書課 ☎552-5109

ふるさといちばん

市長の **HOT** とく

丹波篠山の時代をつくろう



ワクワク都市クーポン券

1月の「まるいのお年玉クーポン券」に続くクーポン券第2弾です。第1弾は、97%の方に利用いただきました。今回は「ワクワク都市クーポン」です。市のキャッチフレーズ「日本の宝石ワクワク都市」から名付けています。



19歳以上の市民は1人3,000円分、18歳以下には5,000円分のクーポン券を6月下旬ごろに郵送します。市内の登録店舗、事業所などで、7月から9月までに使っていただきます。(担当：商工振興課)

新成人お祝いクーポン

今年の成人式は、1月10日の予定が5月2日、それがまた来年1月8日(土)に延期され、着付け・美容・写真のキャンセルが相次ぎました。

市内の登録いただいた理美容店約39店、写真店2店で利用できるお祝いクーポン(男性1万円、女性2万円)をお届けしています。

来年1月31日(月)まで使えます。(担当：商工振興課)



新しい コロナ 経済対策

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が三たび発令されましたが、ワクチン接種を早くすすめ、一日も早い収束を願うばかりです。あわせて、市の新しい経済対策は次のとおりです。ご活用ください。

なお、「クーポン」が多いですが、ワクチン接種も接種クーポン券と呼ばれていますので、お間違えないようお願いします。

お米の生産支援

令和2年産の米価が下落したことを受けて、農業者の経営を支援するため、令和2年産水稲作付面積(自家消費相当の10aを控除)に対し、10a当たり3,000円を交付します。申し込みは9月末日までです。(担当：農都政策課)

企業、事業所のPR動画制作・広告宣伝費

企業、事業所に対する支援として、将来を見通した人材採用に活用していただくため、75万円を上限に動画制作の支援を行います。(担当：創造都市課)

また、同じく中小企業者の販売促進にあてる広告印刷費などに、10万円を上限として支援も行います。(担当：商工振興課)

敬老事業で地酒贈呈

売り上げが減少している酒造業界の手助けに、9月の敬老事業において、75歳以上の方へ市内の地酒(300ml)をお祝いとして贈呈します。(担当：長寿福祉課)

生活支援に丹波篠山米と丹波篠山茶

新型コロナウイルス感染症により、生活への影響が大きい低所得の子育て世帯(児童扶養手当受給世帯約250世帯、住民税非課税の子育て世帯約600世帯)へ、丹波篠山産のお米20kgと丹波篠山茶(緑茶ティーパック)1袋をお届けします。(担当：社会福祉課)



丹波篠山茶

丹波篠山米

このように、いろいろと考えていますので、ご活用ください！

